

講義名	対1)ファッション文化論			授業形態	
担当教員	米谷 侑子	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

ファッションとは、流行(はやり)のことです。多くは服装、それに伴う装飾品、メイク、髪形などといわれる。この授業では、広義の意味で人の生活行動(ライフスタイル)を個々に創造するものとして捉え、テキスタイル(服、ヘアメイク)に限らず、衣食住すべてにかかるといえるもの(色、形、動き)、聞こえるもの(音楽、音、言葉)その他、香り、感触、温度など、全五感に刺激を与え心理的に起こす現象までを含み考えていく。まずは、身近な服飾史を学習し、それに伴うモノである質、住および旅、アニメ、音楽などの流行も学習する。更に、そこから見えてくる社会的背景との関連性を考察し、経済との関連性を考えることが出来るようになる。

到達目標

- (1) ファッションについて社会的視点を持つことができるようになる。
- (2) 衣食住の歴史とその背景となる社会情勢を合わせて考察することにより文化形成の在り方を理解できるようにする。
- (3) テキスタイルにおけるセルメソッドのポイントが理解でき、表現できるようになる。
- (4) ファッションを形成する音楽や香水、エンターテインメント、アニメーション等のそれぞれの社会文化における位置づけができるようになる。
- (5) SDGsとファッションの関係性を考察し、研究成果の意見交換をすることで、考えを明確に伝えることができるようになる。

提出課題

- ・毎週に講義内容の要点、気づきを小レポートする。
- ・後半では、研究課題をレポートする。
- ・プライベートファッションとSDGsを自己表現されたコラージュを作成する。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

- ・授業毎に目標達成確認のためのレポートを作成する時間を設ける。
- ・レポートにて質問や疑問点がある場合は、次回授業冒頭で振り返りをする際フィードバックする。

評価の基準

定期試験レポート 60%
 授業内小レポート 30%
 授業への取組み方 10%
 フィードバック 授業において提出する授業内レポートや小テストに記載された質問に関しては授業内で回答する。

履修にあたっての注意・助言他

ファッションデザインを創造するための基礎作りとなる授業である。デザインそのものを創作、追及するのではなく、広義のファッションとして音楽やビジュアル、食、住居などから社会が求めているデザインとその背景にある世界情勢とを照らし合わせファッションが関わりかける世界を考えていくものであるため、実習では講義を聞くだけでなく、講義内容を実習での動作に反映させていくものである。

教科書

・使用しない。

参考図書

・世界服飾史のすべてがわかる本。 能澤慧子 ナツメ社
 ・ファッションの歴史。 千村典生 平凡社

その他

特になし

授業計画

- 第1回: ファッション文化論とは「ライフスタイルとしてのファッション」
 私にとってのファッションとは何かを考える
 第2回: 【テキスタイルファッション】服飾文化と共に消費者との意識変化を考える
 人間と衣飾の関係(衣飾の成り立ち、衣飾の基本形態)
 第3回: 古代文明の衣服-中世(繊維産業と市場の発達による新しい文化の服装)
 第4回: 近世のヨーロッパの服飾と日本の服飾文化(国民性と服飾、ブルジョワ貴族)
 第5回: 近代の服飾(産業革命と服飾)ファッション史のターニングポイント
 新世紀のファストファッション
 第6回: テキスタイルファッションにおける現代のセルメソッド
 第7回: 【フードファッション】人と食文化の関係(食に対する社会と意識の変化)
 第8回: 食文化と時代背景(消費行動を考える)
 第9回: 【住まいのファッション】住居文化におけるファッション
 第10回: 色から見るインテリアコーディネート
 第11回: 環境と町の色を作り出すエクステリアカラーコーディネート
 第12回: 【その他のファッション】音楽、香水、アニメーション、エンターテインメント等とのかわかり
 第13回: SDGsにみるファッション 研究課題を考える
 第14回: SDGsにみるファッション(コラージュ作成による研究発表)
 第15回: SDGsにみるファッション(コラージュ作成による研究発表)
 定期試験 レポートと作品提出

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア: PBL(課題解決型学習)		イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート		エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション		カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)		

フィードバックと観察と傾聴

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習: 授業前後に次回授業の予習をする。
 各自websiteで調べ、どのような特徴があるか、話題があるかなど概略を把握しておく。(30分)
 自分の周囲の人やあらゆる年齢層の人のファッションについて調査等を行う内容については、次回の授業までに
 現地で見たこと、感じたことをレポートしておく。(30分)
 復習: 授業で学習したことを基にした課題プリント配布する。授業内容によっては、作業を要することもあり、現地で
 行って調査を行うなどレポートする。(60分)
 配布する課題プリントに雑誌や広告などを収集し、切って貼るなどの作業をする。(60分)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

ファッションは未来を創造するものである。自らの発想を形にすることをねらいとした授業である。
 また、今年度はSDGsを授業にとりいれている。様々な事例を学ぶことでファッションとの関連性を学生自らが考え、持続可能な産業を創造するきっかけとなる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

自らの考えや想い、他の学生とのコミュニケーションを取り合う際にICTを利用する。
 出版物など、音楽を取り、オンラインで発信、授業でも放映することで、全員と共有することができる。
 また、データで保存もできるため、提出履歴として残すことができる。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
 アパレル業界において、販売、バイヤーとして活躍できる。
 プライダトル分野においては、トータルイメージコンサルティングを顧客にアドバイスができ、顧客満足度をあげることができる。
 プレゼン能力を活かしてのファッションショー、ステージワーク等の企画、プロデュース、ディレクションができるようになる。

備考

特になし